

2005年 1月31日発行



今回の紙面から (ページと内容)

- 1～2 会長挨拶, 寄付のお願い
- 2 事務代行会社
- 3 今秋の第23回大会とその研究発表
申し込み
- 3～4 ワークショップの企画募集
- 4 理事会・評議員会より
- 4 編集委員会より
- 5 大会運営委員会より
- 5 学会賞選考結果
- 6～7 学生会員の登録継続について
会費納入について
入・退会希望, 住所等の変更について
- 7 訂正とお詫び
- 7～8 編集後記

会長挨拶

千葉 修司

皆様, 新しい年を迎え, ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

ご存知のように, 昨年, 日本学会事務センター破産事件が起こりました。思わぬ事件に巻き込まれた結果, 学会によっては, 年次大会やセミナーなど重要な催しが例年通りには開催できなかった学会も多々あると聞いておりますが, 幸いなことに, 私たちの日本英語学会は, そこまで大きな被害を被ることはありませんでした。確かに, 苦難の道ではありましたが, 何とか無事に, 昨年11月の年次大会の開催までこぎ着けることができ, また大会を成功裏に終えることができました。これは, もちろん, 何ヶ月も前から, 大会の準備のために精力を注いで下さった大会運営委員会のメンバーの方々と, 会場を提供して下さいました獨協大学の先生方と職員の方々, それに, アルバイトとして大活躍して下さいました学生の皆様のおかげです。関係者の皆様に改めて心より御礼申し上げます。

す。今年11月12日(土)・13日(日)に九州大学(箱崎キャンパス)で開催される2005年度の日本英語学会大会も, 同じようにぜひ成功させたいと思います。会員の皆様のご協力・ご支援をお願い申し上げます。

さて, すでにNewsletterの『え〜ごがく』No. 41の中でもご説明致しましたが, 学会が現在抱えております財政問題のことについて, その後のことも交え, 先の学会総会での会長挨拶とも1部重複致しますが, もう一度ご説明致します。

皆様ご存知の通り, この何年かの間に, いろいろな, 新しい, 重要な企画が学会のために計画され, 実行に移されて参りました。たとえば, 学会の機関誌 *English Linguistics* が, 年2回発行されるようになったことや, また, *English Linguistics* がCD-ROMの形で配布されるようになったというのが, そのような新しい重要な企画の例です。ところが, 一方では, そのような, 重要な新しい企画を実行するために, 今まで以上に多額の費用を要するようになってきたという事実にも注目しなければなりません。とくに, 従来, 700万から1,000万円程度あった繰越金の額が, 次第に少なくなり, 来年度には, 繰り越し金が, 300万に満たなくなる恐れがあります。会員の皆様からいただく会費は, 確かに, 年額1,000万以上になるのですが, 会費の納入は, たとえば4月, 5月といった, 年度の早い時期に一斉におこなわれるということではなく, かなりの部分が, 年度の後半以降にならないと納入されないというのが実情です。今回, 会長として学会の台所を預かるようになって, 初めて気づいたことがあります。それは, 現在, 毎年, 150万から300万程度の年度内赤字を抱え, それに加えて, 前年度からの繰越金の額も決して多くはありませんので, 大きな額の支払いをしなければならぬ, 特に年度の前半の時期に, 事務局は手持ちの資金が十分なく, 路頭に迷うというつらい経験を初年度より味わうこととなりました。それに加えて, 寝耳に水の今回の学会事務センター破産事件の勃発です。幸いにも, この事件による金銭的被害は, 会費収入全体の10%に満たない, およそ90万円程度に収まってきています。蛇足ながら,

もっと遥かに甚大な被害を被った学会もありますので、そのような学会の人たちにはお気の毒で、私たちの被害額をお知らせするのがはばかられるほどです。しかしながら、単に金銭的なことだけでなく、日本英語学会、特に事務局が被った様々な形の被害のことを考えますと、今年度発足したばかりの新米事務局にとっては、4月からこれまで、全くご難続きであったように思われます。

そこで、この財政的危機、学会始まって以来のこの苦境を乗り越えるために、学生会員・賛助会員を除く学会員の年会費の値上げ、および、大会参加費の値上げ案を先の理事会・評議員会・総会において提示し、承認していただきました。さらに、理事の方々および評議員の方々には、ご寄付のほうもお願い致しました。できますれば、一般の会員の皆様にもご寄付をお願いしたいと思います。日本英語学会が現在直面しているこの厳しい現状をどうぞご理解下さいまして、何とぞご協力下さいますようお願い致します。会員の皆様が一致団結して事に当たれば、今回の苦境も、必ずや乗り越えることができると思います。皆様のお力添えをいただいて、事務局も日本英語学会のために精一杯頑張りたいと思います。

2005年の新しい年が、日本英語学会の更なる発展の年となるとともに、会員の皆様にとっても実り多い年でありますようお願い致します。

日本英語学会財政立て直し のための寄付のお願い

会長 千葉 修司

昨年11月12日に獨協大学で開かれた日本英語学会第45回理事会、第22回評議員会において、学会の財政立て直しを計るため、2005年度より年会費および大会参加費を以下のように値上げすることが正式に決定・了承され、また、翌13日に開かれた総会においてもご了承いただきました。

維持会員年会費	現行10,000円	→	15,000円
通常会員年会費	現行 6,000円	→	7,000円
学生会員・賛助会員年会費	据え置き		
大会参加費	現行 1,500円	→	2,000円

この値上げにより、今年度以降、年間約230万円

の増収が見込まれることとなります。しかしながら、これまで毎年200万程度の年度内赤字が見込まれていたところに、さらに、今回の日本学会事務センター破産事件による負債額およそ94万円を抱え込み、ますます苦境に立たされることとなった日本英語学会の財政的苦境を乗り越えるためには、この程度の増収額ではまだ十分とはいえず、さらなる財源の確保が必要となります。

そこで、先の理事会、評議員会および総会でもご了承いただきましたように、会員の皆様にご寄付のお願いをすることとなりました。一般会員の皆様にご寄付を呼びかける前に、昨年11月から12月にかけて、まず理事および評議員の方々にご寄付のお願いを致しました。その呼びかけに応じて、現在、多くの方々からご寄付のお申し込みをいただいています。

大変恐縮ですが、この場をおかり致しまして、一般会員の皆様からもご支援をいただきたく、ここにご寄付のお願いを申し上げる次第です。ご寄付いただく金額はいくらでも結構です。ご面倒ながら、下記郵便振替口座にお振り込みいただくか、または、ATMにより下記口座に直接ご送金下さいますようお願い申し上げます。

[振込先]

記号	10200
番号	98507941
加入者名	ニホンエイゴガクカイ

日本英語学会の財政立て直し策を軌道に乗せ、学会の更なる発展を期するために、学会員の皆様には、なにとぞご協力賜りますようお願い申し上げます。

日本学会事務センターに替わる 事務代行会社

昨年11月に下記の会社と契約を結び、主要な事務業務の代行をお願いすることになりました。

有限責任中間法人 **学会支援機構**
〒162-0802 東京都新宿区改代町26-1-B03
TEL 03-5206-6007
FAX 03-5206-6008

第23回大会のご案内

第23回大会は、下記の通り開催される予定です。

日時：2005年11月12日(土)・13日(日)

場所：九州大学(箱崎キャンパス)

(〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1)

会員の方は奮って研究発表にご応募下さい。応募される方は、会員名簿に記載されている応募規定及び下記改訂部分を参照され、封筒に「研究発表応募論文在中」と朱書の上、4月1日(金)(必着)までに下記へ郵送して下さい。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南2-44-5

桐原書店内 日本英語学会事務局

昨年12月に開催の大会運営委員会において応募規定第6、7項の一部が改訂されました。下記をご参照下さい。ホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/elsj/>)にも「研究発表応募規定」が掲載されていますのでご覧下さい。

研究発表応募規定(改訂項目・部分のみ)

2004年12月29日改訂

(旧)

6. 応募者はA4用紙に発表内容をまとめ、4部提出する(コピー可)。発表内容は、日本語の場合、400字詰原稿用紙10枚(もしくはそれに相当する字数)以内、英文の場合は1行65ストローク×1ページ25行で8枚以内とする。参考文献表は上記枚数に含めず、別に付ける。発表要旨の冒頭に題名とキーワード(語または短いフレーズ、5つ程度)を記す。氏名・所属は書かず、本文でも応募者の名前を示唆するような書き方は避ける。
7. 上記6とは別のA4用紙に、論文題名・氏名(ふりがな)・所属・連絡先住所・電話番号・e-mailアドレス・審査希望分野(下記参照)を明記し、2部提出する(コピー可)。【以下は今回の改訂の影響を受けないので省略】

(新)

6. 応募者はA4(またはレターサイズ)用紙に発表内容をまとめ、4部提出する(コピー可)。発表内容は、日本語の場合は1行32字(全角)×1ページ25行で5枚(または4,000字)以内(400字詰原稿用紙10枚以内でも可)、英文の場合は1行65字(半角)×1ページ25行で8枚(または2,400語)以内で、文字の大きさはいずれの場合も12ポイントとする。参考文献表は上記枚数に含めず、別に付ける。発表要旨の冒頭に題名とキーワード(語または短いフレーズ、5つ程度)を記す。氏名・所属は書かず、本文でも応募者の名前を示唆するような書き方は避ける。
7. 上記6とは別のA4(またはレターサイズ)用紙に、論文題名・氏名(ふりがな)・所属・連絡先住所・電話番号・e-mailアドレス・審査希望分野(下記参照)を明記し、2部提出する(コピー可)。【以下は今回の改訂の影響を受けないので省略】

ワークショップの企画募集

シンポジウムが大会運営委員会の企画であるのに対して、ワークショップは、会員の自主的な企画・運営によって、特定のテーマについて発表と自由な討論をしていただく場です。第22回大会では皆様のご協力により、6つのワークショップが開催されました。今年の第23回大会でも11月12日(土)の午前9時30分から12時までをワークショップにあてる予定です。企画・運営を希望される方は、A4用紙で企画書(ワークショップのタイトル、企画者の氏名・所属、1,000~2,000字程度の趣旨)を5部作成し(コピー可)、連絡先(連絡先住所、電話番号、e-mailアドレスなど)を明記の上、3月31日(木)(必着)までに上記事務局宛にお送り下さい。封筒には「従来型ワークショップ企画書」と朱書して下さい。応募された企画は大会運営委員会が検討し、採用企画については6月に全会員にお知らせする予定です。ワークショップで発表を希望される方は、これをご覧になり、企画者に直接連絡をとっていただくこととなります。多数の応募をお待ちしています。

Student Workshopについて

ワークショップをさらに活発にするために、従来型のワークショップと並行して、第20回大会からStudent Workshopが開催されるようになりました。Student Workshopは、大学院生（および大学院を終えた研究員・非常勤講師）が中心となって企画・運営するものです。一つの大学だけではなく、複数の大学にまたがる研究者の連携も可能です。各会場の参加人数を50名程度に抑え、発表者と聴衆がより自由に話し合えるようにします。発表者は院生ないし研究員・非常勤講師ですが、司会者には教員を加えることもできます。Student Workshopが、異なる大学の院生間の学問的な交流を促す機会になれば、と考えています。英語学に関わるテーマであれば、理論や分野は問いません。応募希望の方は、A4用紙で企画書（ワークショップのタイトル、司会者と発表者の氏名・所属、1,000～2,000字程度の趣旨）を5部作成し（コピー可）、連絡先（連絡先住所、電話番号、e-mailアドレスなど）を明記の上、3月31日(木) (必着)までに上記事務局宛にお送り下さい。封筒には「Student Workshop企画書」と朱書して下さい。応募時に学生会員（もしくはそれに準ずる人）であることが条件です。採用された企画には、学会から1件につき3万円の助成金が支給されます。採用企画については6月に全会員にお知らせする予定です。Student Workshopでの発表を希望される方は、これをご覧になり、企画者に直接連絡をとっていただくこととなります。多数の応募をお待ちしています。

なお、従来型WorkshopとStudent Workshopのいずれにおいても、司会者と発表者の全員が決まっていなくても応募できます。また、応募の際には、発表者がすでに決定もしくは予定されていて、採用後、新たに発表者を募る予定のない場合は、その旨明記するようお願いいたします。

理事会・評議員会より

○ 会計

2004年度収支中間報告について事務局財務担当書記から説明があり、理事会および評議員会

において承認されました。

○ 新会費

千葉会長の「寄付のお願い」の中にもありましたように、2005年度より会費が値上げとなります。御注意下さい。新会費は次のとおりです。

維持会員	15,000円
通常会員	7,000円（海外在住の場合8,000円）
学生会員	5,000円（海外在住の場合6,000円）
賛助会員	40,000円

○ 役員の移動

- ・大会運営委員会委員長（退任）

昨年12月をもって、八木孝夫氏（東京学芸大学）が任期満了で退任されました。1年間委員長をお務めいただき、ありがとうございました。

- ・大会運営委員会委員長（新任）

昨年12月15日付けで、岡田伸夫氏（大阪大学）が選出されました。任期は本年12月14日までの1年間です。

○ 会員規定の一部変更について

「会員規定」の2. 会費のニ）として、「Editorial Advisory Boardのメンバーが通常会員である場合は、会費が免除される」という項目が加えられることが決定・承認されました。なお、実施は2005年度からです。

編集委員会より

◇ *English Linguistics* 第21巻2号（2004年秋号）の刊行

EL21.2 が刊行されました。一般論文7編、N&D 1編、書評論文4編が掲載されています。また、第21巻の掲載論文を収めたCD-ROMが添付されています。会員のみなさまには、すでに昨年12月中旬に送付されました。

◇ *English Linguistics* 第22巻1号（2005年春号）の応募論文の査読結果について

EL22.1（春号）に対する応募論文の査読結果は、次の通りです。

	一般論文	N&D	書評論文
応募数	8	6	5
採用	4	0	5
不採用	4	6	0

なお、Joseph Emonds氏からの、氏の著書に対する書評論文へのReplyが、Special Contributionとして掲載されています。

◇ *English Linguistics* 第22巻2号(2005年秋号)への投稿について

2005年11月発行予定の *English Linguistics* 第22巻第2号への投稿論文を募集致します。奮ってご応募下さい。締切は2005年4月1日(金)(必着)です。ご投稿の際には英文を吟味し、2004年2月発行の会員名簿に記載されている投稿規定および書式に関する注意事項を通読され、規定を遵守してご投稿ください。特に、論文の長さ(1頁25行、1行70ストローク以内で、一般論文及び書評論文40枚、N&D 12枚以内)については、規程違反が甚だしい場合、内容のいかに関わらず不採用となりますので、十分ご注意ください。

大会運営委員会より

□ 大会運営委員会の構成

昨年12月より大会運営委員会の構成は次の通りとなりました。

- (委員長) 岡田伸夫氏
 (副委員長) 大沢ふよう氏
 (委員) 杉岡洋子, 田中伸一氏, 坪井栄治郎氏, 松木啓子氏, 寺田 寛氏, 和田尚明氏 (以上留任)
 越智正男, 杉崎鉦司, 時崎久夫, 吉村あき子 (以上新任)

□ 第23回大会のシンポジウムの企画について

現在準備が進行中です。詳しい内容は次号の『え〜ごがく』(No. 43)でお知らせいたします。

□ *JELS 22*について

*JELS 22*は、現在、第22回大会運営委員長の八木孝夫氏に編集をしていただいています。第

22回大会で購入の申し込みをしていただいた方には、3月末にお届けする予定です。

□ 第22回大会の報告

第22回大会は、2004年11月13日(土)・14日(日)の両日、獨協大学において開催されました。本大会では、6つのシンポジウム、27の研究発表、6つのワークショップが行われました。大会2日間で612名の参加者があり、盛会裡に終えることができました。*JELS 22*については229部の購入申し込みがありました。今回も各出版社から書籍の展示をしていただき、本大会では28社の展示がありました。大会運営を支えて下さった開催校の先生方や大会運営委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心より御礼申し上げます。また、今回も大会運営に関する貴重なご意見を多数いただきありがとうございました。今後の大会運営の参考にさせていただきます。

学会賞選考結果

○ 新人賞選考委員会より

2004年度日本英語学会新人賞には、6編の応募がありました。そのうち2編が1次選考を通過しましたが、残念ながら、最終的には受賞作、佳作に該当するものではありませんでした。

○ 特別賞選考委員会より

2004年度は、推薦がありませんでした。

「日本英語学会新人賞」論文募集のお知らせ

第3回(平成17年度)の「新人賞」論文を以下の要領で募集しますので、奮ってご応募下さい。

応募資格: 締切日の時点で37歳以下、または大学院修士課程修了10年以内の日本英語学会会員。

内容: 論文は、主に英語の共時的・通時的研究、言語の一般理論に関する研究、または英語と他言語(特に日本語)の比

較研究などを扱ったものとする。

対象：独創性、発展性に富む未刊行論文。受賞の対象は原則として年度1篇とするが、佳作も表彰の対象とする。受賞論文（佳作論文も含む）は、学会誌 *English Linguistics* に掲載される。

表彰：受賞者に対しては、賞状とともに記念品と副賞（10万円）が総会で授与される。また、佳作に対しては、賞状とともに記念品が贈呈される。

枚数・書式：*English Linguistics* の一般論文投稿規程に従う。

応募方法：原稿5部（コピー可）を略歴（生年月日を必ず明記）および業績一覧表1部とともに、日本英語学会事務局（〒166-0003 東京都杉並区高円寺南2-44-5 桐原書店内）に送付する。封筒の表に「新人賞投稿論文在中」と朱書する。原稿は返却しない。

締め切り：**2005年5月31日(火) 必着**
締め切りが昨年度より1ヶ月早くなっています。ご注意ください。

結果通知：選考結果は9月中旬までに応募者に通知する。

* 「新人賞」の応募に関する細目は、日本英語学会のホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/elsj/>)でご覧下さい。応募に関するお問い合わせは、日本英語学会事務局 (elsj@egroups.co.jp) までお願いいたします。

事務局より

○ 学生会員の登録継続について

来年度は手続きの仕方が少し変わりますので御注意下さい。

2004年度に引き続き2005年度も学生会員としての登録を希望される方は、以下の要領でお

申し出下さい。申告期間の終了直後に2005年度の会員種別を確定し、会費請求をさせていただきますので、申告期限を厳守して下さい。それ以後に申告されても2005年度中は学生会員への変更はできませんのでご留意下さい。

◇申告資格：「学生」の意味を広義に解釈し、研究生・聴講生・専任の勤務を持たない大学院修了者および外国の大学の日本校の学生もこれに含まれるものとします。

◇申告期間：4月1日より4月25日（必着）

◇申告方法：会員番号・氏名・4月以降に在籍する学校の名称を明記した用紙に、4月以降（も）学生であることを証明するに足る下の(1)～(4)のいずれかの書類を添付して、下記宛に「学生会員登録継続希望」と必ず朱書の上郵送して下さい。

- (1) 在籍する学校の発行する在学証明書
- (2) 学生証のコピー
- (3) 進学する学校・課程の合格通知のコピー
- (4) 指導教官（所属明記）の署名（捺印）〔必要に応じて説明の言葉を加える。〕

なお、専任の勤務を持たない大学院修了者は、元指導教官（あるいはそれに類する立場の教官）より必要に応じて説明の言葉を書いてもらい、それに署名（捺印）していただいたものを提出して下さい。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南2-44-5
桐原書店内 日本英語学会事務局

いずれの場合にも、必ず封書をお願いします。なお、申告された後でも、申告期間内に事情の変更が生じた場合には、上記宛先までお申し出下さい。なお、上記の件で何か不明な点がございましたら事務局までご連絡下さい。

○ 会費納入について

下記をよくお読みの上、会費の納入をお願いします。会員の皆様にごできるだけ速やかに会費納入をしていただきませんと、スムーズな学会運営が困難となります。ぜひご協力下さい。

★2005年3月31日まで

2004年度およびそれ以前の会費を、すでに皆様にお知らせしてありますように、下記の「日本英語学会郵便振替口座」に振り込んで下さい。

記号 10200
番号 98507941
加入者名 ニホンエイゴガクカイ

★2005年4月1日以降

2005年度の会費納入については、上記学会支援機構より会員の皆様に「振り込み用紙」が送付されますので、振り込み用紙が届きましたら郵便局から振り込んで下さい。

口座番号 00160-8-648588
加入者名 日本英語学会

また、2004年度およびそれ以前の学会費未納の場合は、2005年度会費に合計して請求されますのでご了承下さい。

○ 入・退会希望、住所等の変更について

これらについては、上記の学会支援機構に直接電話/Faxあるいは文書で知らせるか、または、学会のHPからお願いします。

○ 訂正とお詫び

昨年7月発行の『え～ごがく』No.41、4ページの「役員の変動」の項の記載事項に誤りがありました。

- ・退任された評議員の堀口委希子氏のご所属（誤）明治学院大学 →（正）聖心女子大学
- ・評議員（新任）に、大庭幸男氏（大阪大学）を追加する。

以上、訂正いたしますとともに、関係の方々にお詫び申し上げます。

編集後記

前号（No.41）で、「新米事務局は、財政危機の直撃を受けつつ、奮闘中です」と書きましたが、

あるうことか、その後、思いもしなかった日本学会事務センター破産という痛烈な追い討ちをかけられてしまいました。その『え〜ごがく』No. 41は、学会事務センターの資産凍結の寸前に皆様のお手元に何とか発送することができたという経緯があります。そのようなこともあって、この非常事態についてのご説明は、9月に「大会資料・プログラム」と一緒にお届けした会長からの文書によるものが最初となりました（これが、それ以前とは異なる封筒で届いたのをお気づきになりましたでしょうか）。そして、EL21.2の送付から、上記学会支援機構に担当していただいています。

というようなことで、ここまで、いわゆる「例年通り」にスムーズに事が運ぶということがあまりありませんでした。そのため、会員の皆様には多くのご迷惑をお掛けしたのではないかと案じております。それでも、千葉会長のもと事務局全員一丸となってどうにかこうにかこれまでやってくることができました。これもひとえに、役員と会員の皆様方の温かいご支援とご協力のお陰であると思っております。事務局員一同心より感謝申し上げます。

寄付についてお知らせしておきたいと思います。1月11日現在で、51名の顧問、理事、評議員の方々からご寄付をいただきました。ご支援に感謝致します。詳細は次号にてお知らせする予定です。

最後に、この4月より、事務局の陣容が次のように変わります。

事務局長：鈴木 猛（東京学芸大学）

編集委員会・理事会書記：

谷 光生（宇都宮大学）

猪又千鶴子（津田塾大学非常勤講師）

評議員会・大会運営委員会書記：

天沼 実（宇都宮大学）

財務係・新人賞書記：

佐藤響子（横浜市立大学）

新事務局にも、これまでと同様、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（池内，前田，井川）

2005年1月31日発行

編集・発行 日本英語学会

代表者 千葉 修司

発行所 日本英語学会

〒166-0003

東京都杉並区高円寺南2-44-5

桐原書店内

電話 (03) 3314-8181



古紙配合率 70%再生紙を使用しています